

③2 泰澄大師の千手観音像

その昔、金谷のお宮さんの観音堂に、泰澄大師が作られたという千手観音像が祀られていたそうです。

ところが、江戸時代の中ごろのこと、春祭りにお堂の戸をあけると、観音像がないので、村中大さわぎになりました。みんな手分けして、あちこちさがしまわりましたと。金谷坂をこえて、一乗谷の方をさがしていた庄屋さまの一行が、阿波賀の川べで休んでいた時です。



「おい、あそこになんか落ちてるわ。」
と一人が川の中を指さしました。みんなが近づいて見ると、もう三月もそれこそ必死にさがしていた千手観音さまでした。

「わいの若い衆、ひとつぱしり村へ知らせてお

くれ。」

庄屋さまがそう言い終わらないうちに若者は走り帰って、村の上から叫びました。

「おい、ご本尊さまが見つかったぞ。」

村人はよろこんで、峠までそろって観音さまをお迎えに行きました。そしてお宮さんに集まって、そのころではごちそうだったうどんを食べてお祝いしたのです。その日が六月十七日だったので、それから「祇園祭り」「ひびき祭り」として祝つようになったんです。

それから、金谷では一月のもちまきも九月の秋祭りもぜんぶ十七日に行なうようになったそうです。祇園祭りは、いまはひと月遅れの七月十七日、京都の祇園祭りと同じ日にとりおこなわれています。

鯖江藩寺社改ちよう

金谷村

▲観音堂 木造 長壱尺五寸

式間に三間

▲白山宮 木造 長八寸

九尺四方

祭礼三月九日・十日 九月九日・十日